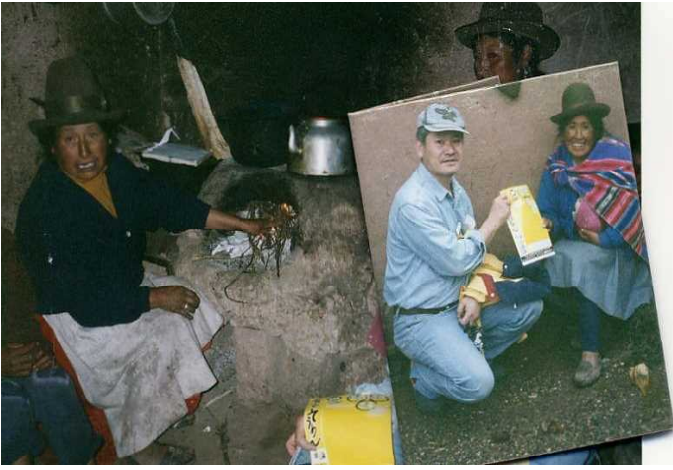


■第一号■

ペルーに学ぶ智恵とパワー
木村優仁（五〇）

昨 年ルーを訪れました。そこには気が満ち、パワーがもらえる場所がいくつもあります。

インカ帝国の首都クスコは、高度三千三百メートルでアンデスの中央に位置し、高度も中くらい。じゃがいもやトウモロコシが収穫できます。これより高い四千メートルでは母なる穀物スパーキヌアや若返りの食材ウルトラ



マカの栽培とリヤマやアルパカの放牧が行なわれています。

下山したアマゾンでは胡椒の栽培と木材が豊富で、西には豊かな海があり、登り下りしながら高度差を利用した生活を見ることが出来ます。

一番の収入源であるアルパカやリヤマは、四千米以上にしか育たない高原の草を好むので、アンデスの民は家畜に合わせて住居を構え暮らしています。

彼らの主食であるジャガイモは、高度三千メートルにしか育たないんです。夜、家の外に出したじゃがいもは、零下で凍結し、昼間の強い日差しで解かし蒸発させる、今のフリーズドライ製法を何百年も前より生活の一部として息づかせています。

世界中の気候を持ち、じゃがいもはじめ多くのものが生まれています。自然や動物と共に生きなければならぬ高原の厳しい生活がそこにありました。（南高有家町）

■第一号■

オンブズマンとは
日本オンブズマン学会
木村優仁（六十三）

ス ウェーデンに行ってきた

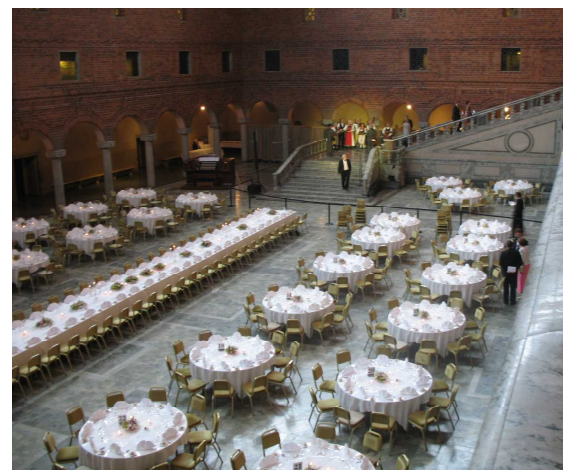
した。首都ストックホルムは、人口は約75万人で「北欧のヴェネツィア」と言われ水の上に浮いているような都市です。北欧で最大の人口を誇り、国土の半分は森林に覆われ十萬の湖と何千もの島で形成され、ヨに加盟しているが通貨は独自のクローナです。水は綺麗で治安がよく歓楽街がなく運転マナーもよく必ず横断するまで停止してくれました。観光も中央駅を起点にして多くの観光地を歩いて訪問できます。世界に通じるため小学低学年から英語の授業があるため英語がよく通じ単語会話でも十分に滞在活動ができました。



た。特に日本から福祉に関する視察が多いようです。

また、消費税は何と25%！

この数字ばかりが一人歩きしています。実際は消費税にも3段



階あり25という数字はその内の一番高い税率のことです。出版物・公共交通6%、食料品12%、それ以外25%です。人口が少ないので女性の社会進出に期待をかけており、諸々の優遇施策が実施され、国民の知恵と力を活用しています。会議の最終日には、「ストックホルム市庁舎青の間（ノーベル賞の晩餐会と同会場）」で国王・王妃ご臨席のお別れ夕食会にお招きいただきました。

（南島原市）

■第三号

苦情の中に未来が見える

日本オンブズマン学会

木村優仁（六十四）

近

年、住民の行政に対するニーズは、益々増大し、これに伴って住民の行政に対する苦情も増加する傾向にある。これらの苦情を的確に処理し、その処理過程を明らかにするとともに、開かれた行政の推進と住民の行政に対する信頼を確保するためにオンブズマン制度がある。

オンブズマン制度は、住民から行政に対する意見や苦情を公正な観点により行政の施策に還元（フィードバック）し、行政に対する住民の理解と信頼を高めることのできる制度で、住民参画と協働を促進するためのひとつの手法として進化してきたが、近年は、行政だけではなく民間の福祉関係でも有効な制度として機能するようになった。

このように現行制度を補完し、簡易・迅速に申立てを処理することにより住民の権利や福祉利用者の利益の擁護を図ることができ、特に先駆け施策や苦情が集中して

いる分野には有効に生かせるため、日常業務の中で個々の意識改革がなされてこそ、本制度は生きてくる。

よって、苦情を苦情とだけで処理するのではなく、次代を見据えた行政へのヒント（財産）だと大切に扱えば、組織は変わってくると思われるので、本年も制度の啓発並びに各種組織への制度化に向けて働きかけていきたい。（南島原市）



■第四号

木村優仁 ○